穂高岳　山行

日時　平成22年7月20日（火）～22日（木）

場所　長野県

参加　3名

20日（火）

　4:30起床、新宿に6:45ごろ到着。JRスーパーあずさ1号に乗車、結城さんに乗車前に合う。込み具合はそれほどでもないかに見えたが、出発間直に自由席は満席になった。甲府まで混雑したが、それからは空き始めた。天気は最高に良く気持ちがいいほどだ。途中、結城さんの席と西川さんの席にいき、存在を確かめた。予定通り9:39に松本に到着し、10:08発の松本電鉄の電車に乗車。切符は下車時JRの切符と交換で料金を支払う事になっていて、新島々駅の改札口は混雑を極めた。バスは出発が少し送れ11:00に新島々駅を出発、上高地に向かった。乗客はほぼ満席に状態。上高地には予定通り12時少し過ぎたころ到着した。上高地はウイークデーにもかかわらずかなりな観光客で混雑していた。木陰のベンチで昼食後12:50に上高地をスタートして横尾山荘に向かった。途中、明神池を見学したが、ここは神の池ということで入場料を取ったため、外部から覗き見で中には入らなかった。上高地の語源は「神降地　かみこうち」だそうだ。通常は梓川の右サイドを登っていくが、今回は左サイドの自動車道を黙々と登った。上高地の標高が1500ｍ、横尾山荘の標高が1600ｍで僅か100ｍを登るだけなのでどちらの道を選んでも苦痛はない。むしろ左サイドの道は全く人影がなく静かで楽だ。横尾山荘には15:53に到着した。一風呂あび、庭先でビールで乾杯、この山荘は珍しく風呂がある山荘で、しかも綺麗な山荘だ。いままで泊まった山荘の中で最も綺麗な山荘だという印象を受けた。部屋は2段ベットになっていて、泊まりも快適だ。ビールは500ｍｌが800円でかなり高めだ。9時に消灯で気持ちよく眠りについた。

21日（水）

5;30朝食、5時ごろ起床、早速小屋の外に出て天気状況を確認した。前面の山が朝日に輝き絶好の好天であった。朝食後、弁当を受け取り（パン食主体の軽食）6:25に横尾山荘を出発した。左サイドに屏風岩を眺めながら緩やかな山道を登った。約30分ごろ屏風岩の端に北穂高岳が見え始めた。山荘のくっきり伺う事が出来るほど天気は最高であった。7:25ごろ本谷橋に到着。水量はかなり多い。轟々と梓川がうなりを立てて歓迎してくれている。途中、エンレイソウやキヌガサソウが咲き乱れていて、心を癒された。更に登っていくと雪渓が見え始めた。今年は残雪が多いと情報を得ていたがＳガレ付近から残雪の登山となった。雪面はかなりキツイ日光の影響でやわらかくそれほど危険な状態ではない。硬く締まった雪面に比べ登りは大変楽であった。雪道をゆっくり慎重に登っていく事30分で涸沢小屋に到着した。小屋で飲み水とトイレを済まし暫らく休憩して涸沢カールの醍醐味を堪能した。小屋のスタッフが言っていたが、今年は例年になく残雪が多く、時間が例年に比べ約1ヶ月まえの状態だそうである。見上げると穂高の頂上付近が眼下に迫っている。今からあそこまで登るのかと、本当に登れるのかと不安になるほどの迫力である。小屋を後にし、雪渓の上をなるべく歩かないようにルートを選びながら上り始めた。それでも、この付近まで来ると、雪渓の上を登らざるを得なくなり黙々と慎重に雪渓を登った。背面には常念岳が雄大な姿を覗かせていた。ザイテングラート取り付け部で昼食、これからいよいよ岩稜地帯に突入だ。かなりの角度で登らねばならぬ。既に奥穂高岳に登り下山してくる登山者に沢山出くわした。登山は登り優先のルールが常識であるが、下山してくる面々にはそんなルールお構いなしてドンドン下山してくる無法者もいる。特におばさん登山者は全くの無法者だ。おじさん登山者や若者登山者はそのルールをしっかりと守り、気持ちがいい。キツイ岩稜地帯をゆっくりと慎重に登り、最後の雪渓を上り終えると其処が穂高岳山荘だ。13:15に到着した。約2980ｍの地点だ。涸沢小屋から望んだ地点にいま到着したのだ。とても登れそうもないようなところに今到着した、感無量であった。暫らく休憩後、涸沢岳を目指した。西川さんは「もう、いいわ」の言葉どおり登る事を諦め結城さんと2人で登った。時間も午後になっているので、生憎頂上はガスがかかり槍ヶ岳方面は全く遠望がきかず、奥穂方面はガスの晴れ間をうかがいながら写真を撮った。穂高岳山荘に再び戻ったのが14:30であった。山荘はかなり大きく、「浅間山」という名称の部屋を取ることが出来た。この部屋は改造したらしく、我々の寝る上にもう一段のフロアーを設置し、収容人数を確保しているようだ。シーズンもまだ本格的ではないので、小屋はそれほどの混雑はなかった。夕食はかなりの野菜が出てきてびっくり。ヘリで野菜等々を運び込んでいるのだろう。9時に消灯し眠りについた。今日も天気は老巧で快適な1日であった。しかし疲れた。涸沢岳の登山で肉体の限界を感じた。

22日

　4:20ごろ起床、今日もいい天気だ。ご来光を見に小屋を飛び出した。東の空が朝焼けに輝いている。少し寒い。ダウンジャケットを羽織る。4:45ごろ太陽が東の空から昇り始めた。丁度常念岳の頂上辺りに太陽が輝いていた。素晴らしいご来光だ。5:00に朝食をとり、準備をして5:30から予定通り奥穂高に一歩を踏み出した。急な登坂が始まる、いきなり梯子を登るほどの急な山道だ。一歩違えば滑落し、重症か場合によっては命はない。慎重に3点確保の基本を忠実に実行しながら登っていった。天候は最高の状態だ。周りの山々が雲海の上に緑色や白い雪渓を抱きながら浮かんでいる様子がとても印象的であった。途中ジャンダルムがお前達にはまだまだわしのところは無理だなとでもいいたげに荒々しい山肌を見せていた。急な登坂を続ける事50分、6:20に奥穂高岳の頂上に到着。憧れの山頂に到着した。山頂は非常に狭く、先客が７，８人おり既に満席の状態であったが、皆お互いの気持ちが通じ合っていることもあり、かわるがわる場所を譲り合いながら写真をとったり、周りの山々の美しさを堪能した。槍ヶ岳、昨日昇った涸沢岳、北穂高岳、更にこれから行こうとしている前穂高岳、西穂高岳、その前に毅然とそびえるジャンダルム等々が眼前に広がり、少し遠方に目を向ければ立山、薬師岳、乗鞍岳、木曾御岳、南アルプスの山々が雲海の上にはっきりと見ることが出来た。25分間頂上で北アルプスの醍醐味を満喫した後、吊尾根のアタックに向けて出発した。やはりかなりの難所続きだ。今日のような天候に恵まれた状態でさえ危険を伴う箇所が沢山あるところで、悪天候ではとても登山を続ける事が出来ないと感じた。途中、岩と岩との間にけな気に咲いているイワカガミや可憐な花を咲かしている高山植物に励まされて吊尾根に挑んだ。7:55に吊尾根を超え喜美子平に到着した。奥穂高岳や吊尾根を背景に記念写真を何枚も撮った。其処にザックを置きサブザックだけの身軽な身体で、前穂高岳のアタックを開始したのが8:35だ。このルートもかなりキツイ。岩稜の山肌を呈し、かなりの危険な箇所を乗り越えて頂上に到着、約25分時間を要した。頂上からの眺めがまた素晴らしかった。特に槍ヶ岳から北穂高岳、涸沢岳さらに奥穂高岳が一望できる図柄は圧巻であった。約30分の時間を要して再び喜美子平に戻った。帰路の方が時間を要したようだ。それほど下降には気を遣い慎重な下山を実行したと言う事であろう。ここからが北アルプスでも折り紙つきの急勾配の重太郎新道の下山開始だ。9:35に喜美子平を出発した。慎重に3点確保の基本を忠実に守りながら下山を開始した。間もなく雷鳥広場を過ぎ、10:25に岳沢パノラマ地点に到着、眼下に岳沢や新装した岳沢小屋が焼け付く太陽の光を浴び眩しく輝いていた。暫らく休息ご再び下山を開始。程なくしてカモシカ立場を過ぎ11:45にやっとも思いで岳沢ヒュッテに到着した。約2200ｍ地点まで標高差1000ｍ近くを一気に下降してきたのだ。足は既に膝が笑い始めている。昼食後上高地に向けて出発した。残り、標高差にして約700ｍを下降することになる。ここからは急な登山道は全くなく両サイドブッシュや低木に囲まれた山道を下山する事になる。かなり長い道のりだ。ガイドブックによれば2時間の下りだ。途中の風穴で冷気を味わい約1時間40分で上高地の周辺散策路に到着した。ここに来てやっと緊張の糸がほぐれた。後ろを振り返ると、今日の朝方苦労した吊尾根が見上げるばかりのところに輝いていた。河童橋を過ぎ、ここまで来るともう避暑地の上高地の雰囲気だ。時間的なこともあり、温泉での汗流しを諦め、上高地インフォーメーションセンターでシャワーを浴びさっぱりした気分になった。16:00丁度初のさわやか信州号に予約を確認し、バスセンターに２階で反省会をやった。生ビールの美味かったことは言うまでもない。さわやか信州号は17名の乗客でがらがらの状態であった。20:20ごろ新宿駅に到着し、自宅には22時ごろとなった。